

事業所における自己評価結果（公表）

別紙3

令和
公表：平成6年2月8日

事業所名 ありんこいれい / びん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	正			
	②	職員の配置数は適切である	正			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	正		車イススタッフ等、名前・マーク等、工夫がなされている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	正		フロア種類ごとの清潔、トイレ掃除等している。 活動内容に合わせて、パーティションなどで区別する。	空間が広すぎると感じる時もあるのので、パーティション等工夫することも検討中。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	正			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	正			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	正	—		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	正	正		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	正		定期的な社内研修や他事業所への視察研修	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	正		保護者のニーズと本児の課題を踏まえて適切に配慮	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	正			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	正	—		

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	正		子どもへの今後の必要としている課題を、目標達成に向けて支援している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	正		週ごとに集団活動プログラムの内容の意見を話し合っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	正		子どもが定着した、難に合ったリハビリテーションを見直し、セレベルアップにもしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	正			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	正		前の週に次週の活動内容の確認を行っている。役割、準備物の確認も行うことシステムに伺っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	正	—	あつて出来事だけでなくその後どうしていくか等の方向性を確認。報告資料にもならないようにする。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	正		振り返りの時に子どもに対すること、支援の理由などお話しできるように準備している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	正			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	正			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	正			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		下		当事業所内は該当なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		下		当事業所内は該当なし。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	正			モニタリングへの参加、支援計画書などで情報共有している。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	正			
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	正	—		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	正			

	⑲	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	一	下		
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	正			連絡や表(LINE)を通じて行う。
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	一	下		
保護者への説明責任等	㉒	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	正	一		
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	正			1児発達が主として定期的な支援内容と混在し見直しを行い保護者の同意を得ている。
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	正			電話、LINEなどで見守り対応している。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	下	下		夏に南行催、参加率もよく楽しい会になったので今後も続けたい。
	㉖	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	正			出来る限り、迅速に対応している。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	正			年間行事は4月に一度おたより11月に一度発行している。
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	正			保管庫の管理もしっかりとされている。パソコンも外では使用できていない。
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	正			
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	下	下		招待はしていないが次回で野菜を作れるかと交流したりしている。
	非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	正		
㉜		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	正			年に2回以上訓練している。
㉝		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	正			契約時に提出している。予防接種履歴は把握している。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	下	下	利用開始前に保護者様より情報頂いている。 食事もあることについて。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	正		その場に遭遇したスタッフが 参入し指さし見送る ようにアイルにしている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	正		毎年事例を使ってスタッフで 議論し虐待防止に関する知 識を向上している	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	一	下		支援計画に記載できていないので 今後変更する必要あり。 議論し課題はなるが、これ と答えが必ず決定には至っていない

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。